

加藤貴弘

初めましてそしてさようなら

君にあったのは
もう旅立った後だったね
点滴取らせてね。さっきの子はこれで目がさめたんだ
泣き叫び、お母さんに抱きしめられてやっとな泣き止んだのだよ
君もめいっぱい暴れてごらん、
真っ白で冷たい手、喉頭鏡の入りにくい固く冷たい口
つかの間の63日というこの世の滞在
君のお母さんはね今の君を抱きたくないって
そうだね、君はもういってしまっただ…。
これからは僕らの仕事
君の旅立ちをお母さんに伝えること
男の人たちにかかえられて入ってきた君のお母さん
必死で君を見まいと、逃げようとする
力の限り現実を否定する言葉を張り上げる
そして
無情に響く死亡宣告
力尽き床にくずれる、
君を産んだときの、あの自信たっぷりで、
未来を信じ
一人で君を育てる決意をした
君のお母さんは今、
：
ここのベッドの上には
行き場を求め
静かに現実が佇んでいる